


銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



10月の銅の概況及び11月の見通し (3)

予想レンジ		
LMEセツル	7,900-8,300ドル	●
建値	117万円-129万円	●
為替	145円~150円	●
(1か月間TTM)		レンジ内

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると9月の自動車生産台数は前年比+13%の80万6,639台。

輸出は前年同月比+12.9%の38万9,194台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると10月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+14.9%の24万3,144台。

内訳は乗用車が+12.4%、貨物が+12.3%、バスは+51.6%。

【住宅着工戸数】

9月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比6.8%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比1.5%の減少となった。

【伸銅品生産】

9月伸銅品生産量速報値は5万3,890トン、前年同月比13.3%減少した。21か月連続マイナスとなった。

14品目中12品目が前年同月実績を下回った。プラスは、好調な銅線と黄銅条である。

車載向け半導体は、パワー半導体などのディスクリット向けとIC向けともに好調である。ただ、それ以外の半導体向けが回復してこないのは、特にデジタル家電の低迷が大きく影響している。自動車コネクタは、メーカーが売れる車を中心に生産を注力しており、そうした差が在庫消化などにも影響している。民生用コネクタは、中国の購買力低下の影響をまだ受けており、低迷が続いている。

銅条

前年同月比2ヶ月連続のマイナス。マイナス幅は小さい。大型の配電盤で動きが見られて回復が続く。中小型の配電盤は、他の部材の入手が滞り気味なため低調が続いている。

黄銅棒

同比21ヶ月連続マイナス。ガス、給湯機器に関連するLPGバルブが繁忙期並みに需要戻っている。ただ、業ごもり時にいろいろと需要が伸びた反動がまだ部品在庫として残っている。

【電線】

前年比は-6.1%の53,000 t。
内訳は国内が-3.2%、輸出が-61.4%。

【輸出】

電気銅は-12.6%の5万8,232 t。
スクラップは+32.7%の3万3,936 t。

【輸入】

電気銅は+82.5%の469 t。
スクラップは-15.7%の9,477 t。

【見通し】

【自動車】

9月の自動車生産が+13%。10月国内販売台数が前年比+14.9%。

9か月連続で生産、販売共に回復の兆しあり、今後に期待。

【伸銅品生産】

9月伸銅品生産量速報値は5万3,890トン、前年同月比13.3%減少した。21か月連続マイナスとなった。

14品目中12品目が前年同月実績を下回った。プラスは、好調な銅線と黄銅条である。

車載向け半導体は、パワー半導体などのディスクリット向けとIC向けともに好調である。ただ、それ以外の半導体向けが回復してこないのは、特にデジタル家電の低迷が大きく影響している。

【電線】

中国の景気後退の影響から更に悪化ちらも回復の目途はたっていない。

【スクラップ景況予想】

流通(一次問屋) 今月銅建値が128万から一時122万、最終125万下落傾向だった。

在庫は今月も伸銅品生産減、発生減から在庫薄。

需要面に関しては自動車生産販売の回復から一定の需要は出るが民生用途も中国を中心に需要の回復が遅れている一方中国への輸出は増えており国内需給は引き締まっている。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①米FRBの金融政策、②中国の景気対策。

①に関しては、10月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が市場予想を下回ったこと、失業率は3.9%と前月と同じ3.8%を見込んでいた市場予想を上回り、平均時給は前月比0.2%増で、市場予想(0.3%増)ほど伸びなかったことなどから12月に利上げはないのでは？

②に関しては、消費は増加幅拡大も一部に弱さ、物価は前年比横ばい。10月24日、全国人民代表大会常務委員会第6回会議で1兆元の国債増発が承認された。

こうしたことなどから一方的景気後退はないのでは？

これらを踏まえた今月の銅価格は7,800-8,300ドル(セツル)との予想。

ドル円値は145円~150円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては117万-129万円程度と予測している。

(「10月の銅の概況及び11月の見通し」おわり)